

# プロジェクト報告 Project Reports

## チリ共和国 『地震復興支援』 消防署再建支援事業

サポート:浄土真宗本願寺派  
たすけあい運動募金  
2011年2月

2010年2月27日に起こったマグネチュード8.8のチリ地震と高さ10メートル以上の津波により、コンスティトゥション市にある唯一の消防署が大きな被害を受け、市民救援に全力を注いでいる消防署の再建は急務であったため、ICAは浄土真宗本願寺派のたすけあい募金による消防署の再建を実施した。



修復途中のコンスティトゥション第3消防署

コンスティトゥション市には、第1から第5まで、5つの消防署があった。

当事業では、政府支援が行き届いていなかった第3消防署の再建を実施した。第3消防署は、最も古いコミュニティー消防署で、地域住民から構成される消防団である。この支援で、消防団は任務にもどれ、地域の防災と人命救助など消防活動のために末永く貢献できると言った。そして、当事業が取材されたことにより、第3消防署は、チリ全国消防士連盟に対して、フェーズ2となる再建資金の申請をすることが出来た。

チリの消防署は世界でも珍しく、市民によるボランティア活動で運営されている。コンスティトゥションではボランティアが140~150人登録されており、ボランティアは自分の仕事をもちながら、地震、火災、洪水などが起こると災害救助を優先して出動し救助活動を行う。企業及び団体の事前承諾で消防署員は会社を休んで救助活動にあたることができる。チリ国民もそのことを理解しており、消防隊員を尊敬し、積極的に支援や応援をしている。

各市には消防署を統括する事務局が置かれ、ディレクター、会計、秘書が存在する。運営費は一般からの寄付で運営されている。

消防署の再建サポート事業の名盤除幕式に参加したマキシミアノー氏は、コンスティトゥション全体の消防署を管轄している最高責任者であり、彼もまた消防署の仕事の他に、土日は若い受刑者の社会復帰のために指導教員として勤務する。



◀ コンスティトゥション地図



名板除幕式の様子



## 震災後のコンステイトゥション消防署員の活躍



前大統領（中央）と共に救援の指揮を執る消防署長マキシミアノ氏（左）



中州に取り残された被災者の救助等をチリ軍隊と共同で実施した



倒壊した家屋での人命救助活動



救助犬を連れた捜索活動



被災市民への水の配給活動

コンステイトウシオン第3消防署員



第3消防署のロゴとマキシミリアーノ長官

